

# JAやまがた

11  
2017

山形市・上山市  
山辺町・中山町



02 特集 JAの未来

## 大蔵の棚田から 日本の棚田を元気に!!

08 農業情報

12 旬の料理 すういーとぽとと







# 大蔵の棚田から 日本の棚田を元気に!!

山辺町大蔵地区の「大蔵の棚田」は丘陵の緑を背に黄金色の稲杭が規則正しく並んだ景観が大変美しい棚田です。一時は休耕地が進み杭掛けの風景も失われつつありましたが、地元「中地区有志の会」とボランティア団体「グループ農夫の会」が棚田再生を通して大蔵地区の活性化を積極的にを行い、地域の誇る棚田の原風景を取り戻されつつあります。今回は「グループ農夫の会」代表の稲村和之さんにお話を伺いました。



がた、多くの皆様のご協力のもと、40<sup>年</sup>から始まった棚田の再生面積は、年々増やしていき、今年<sup>は</sup>25<sup>年</sup>まで拡大しました。

——現在は素晴らしい景観の棚田ですね。7年でここまで再生されたとは驚きました。

**稲村** どんな取り組みにも、「継続」が大事です。そのために、楽しめるこ

ととして、田植えや稲刈り体験の他、棚田でダンスと音楽を披露するイベント、雪中棚田サッカー大会など年間を通して、さまざまなイベントを開催しています。

今年の「グループ農夫の会」の会員は77名です。県外からの参加者もいます。地域貢献事

## 地域の宝である棚田を 消滅させるわけには いかない

——棚田再生に取り組むきっかけとなった理由は何か。

**稲村** 大蔵地区の棚田は、平成11年に「日本の棚田百選」に選ばれました。しかし、深刻な高齢化や担い手不足により耕作地がどんどん減っていきました。平成22年、朝日新聞に掲載された「大蔵の棚田 消えゆく 残るは最盛期の3割のみ」という記事を目にし、大蔵地区で生まれ育った私は衝撃を受けました。このままで



指導を受けるモンテディオ山形 木山監督



## 地域が元気に

——大蔵地区(中地区)の皆さんに変化はありますか。

**稲村** この事業をスタートさせた時は地域の皆さんから心配の声もありました。しかし、高齢になり米作りを最初から最後まで一人ですでなくとも、草刈りならでき、田植えならできるとい部分作業ならできるとい方もいらつやいます。そういう方も「中地区有志の会」として一緒に活動し、田んぼがきれいになってきました。ようやく7年目にして棚田が蘇りつつあります。

他県から研修に来てくださる生産団体なども増え、「中地区有志の会」のメンバーも自分たちの取り組みを話す機会もあり、自信を持って話をすることが、エネルギーになって返ってきていると感じます。

## 棚田のてっぺん目指します

——課題やこれからの目標はありますか。

**稲村** 課題はこの棚田も同じで昔から高齢化であと何年できるかなどと言われていますが、先のことばかりはわかりません。最後までやりきるこ



10月1日 大蔵棚田でダンス♪  
“大地の声が聴こえるかい”



9月23日 モンテ棚田米の稲刈り、杭掛け作業



業の一環としてモンテディオ山形の選手やサポーターにも田植えや稲刈りに参加していただいています。生産した米はJAやまがたの協力を得て「棚田米」として販売し、消費者の皆様からの購入を通して活動の継続を支えてもらっています。

## 農業、スポーツ、音楽で 相乗効果

——イベントに農業とスポーツ、音楽が融合して新鮮な取り組みですね。

**稲村** 農業、スポーツ、音楽は人間の必要不可欠なもので、相通じるものがあると思っています。その3つが重なり合い相乗効果を発揮することによって色んな人に感動を与え、心に響きエネルギーになり、パワーが出てくると思います。

例えば、棚田でダンスと音楽。田んぼの原風景とダンスと音楽って幻想



お話しを伺った  
「グループ農夫の会」代表の  
稲村和之さん。

的で良いですよ。農業している人が音楽っていいな、音楽している人は棚田のある農の風景ってどこか懐かしくていいなと思ってもらええ。スポーツ選手も美味しいお米を食べ、エネルギーにしている。農業も音楽もスポーツもそれぞれ繋がっていると思うのです。

モンテディオ山形と、米作りをしたいと一生懸命取り組んでいらつやる会員の方もいます。農業に関わるきっかけとなる入口が複数あると、さらに多くの人に関心を持ってもらえます。

**稲村** 食は人間のパワーの源です。その食をつかさどるのが農業。自然は人間の心を癒します。その地域の自然を守っているのも農業。こんなに魅力ある仕事は他にありません。農業は素晴らしいです。

——最後に稲村さんにとって農業とは。

です。農業、スポーツ、音楽で感動していただく、人が集まる、パワーが出る。次の扉を開くと必ず明るい陽射しが入ってきます。「グループ農夫の会」の活動は平成26年に山形県より「やまがた公益大賞グランプリ」をいただきました。大変嬉しく光栄なこと。これからも、棚田のてっぺんまで再生を合言葉に大蔵棚田の原風景を後世に残していきたいと思っています。